

## 【論文】

# 日中複合語構成特質の対照研究

——形容詞語基を含む複合語を中心に——

馬 小 兵

Contrastive study of Compound Words in Chinese and Japanese

Ma Xiaobing

### 要旨：

本稿主要论述了带有形容词词素的日语复合词和汉语复合词各自的构词特点、词义的表现方式以及两者之间的对应关系。

本稿首先分析了带有形容词词素的日语复合词和汉语复合词的各种构词类型和特点；其次指出在分析上述复合词词义时，不仅要重视显现在其构词类型中的语法关系，同时还要注重构成上述复合词的两个要素之间的综合关系和由语法关系派生出来的特殊关系；最后归纳总结了带有形容词词素的日语复合词和汉语复合词之间的对应关系。

**キーワード：**複合語の意味、要素意、文法関係、総合関係、特殊関係

## 1. はじめに

本論文は、形容詞語基を含む複合語を中心に、日中複合語の構成パターンと意味に対する分析を通じて、これまでの複合語における各要素の構成への文法的な分析を確認したうえで、複合語の各要素における結合関係を考察する。

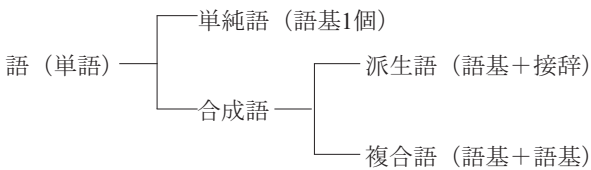
語構成について、日本語では、『国語学研究辞典』（1977）は「語構成の問題として扱われるものには、二つの面がある。一つは、造語の問題について論ずるものであり、一つは、語構造の問題について論ずるものである。

前者は、命名における新語形成に際しての造語論的な事実を発生的な見地から扱おうとするもので、後者は、既存の語に共時的な見地から分析を加え、それを構成している要素の性格や結合の型などの語構造論的な事実を扱おうとするものである」(p167)と説明している。

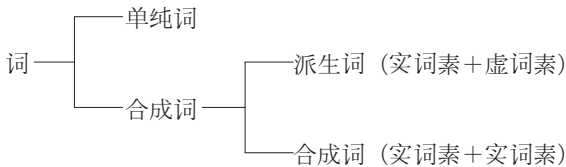
一方、中国語では、張静(1987)は“构词法是由两个或两个以上词素构成新词的规则。”(p16)と説明している。

本論文は、日中複合語の結合について考察したい。具体的には、複合法によって形成された複合語について、その構成パターンと意味、構成要素における結合関係を中心に、日本語と中国語を対照しながら、日中複合語構成の特質と対応関係を究明したいと思う。

通常、日本語の語(単語)と呼ばれるものを分類すると、次のようになる。



一方、中国語の方も同じく、“词”は以下のように分類されている。



その語基、つまり“实词素”は、語の意味的中核となる(少なくとも意味の明確な)もので、単独で語を構成することも出来る。本論文にいう複合語には、以下のような三つの条件<sup>1)</sup>がある。

- a. 二要素で形成されたもののみで、それ以上のものにふれないことに

する。

b. 二要素のいずれも、語基（“実词素”）のみならず、単語（“词”）でなければならない。つまり、単語（“词”）として単独で使わなければならないものを言う。

c. 二要素の中で、少なくとも一つが形容詞（日本語の場合、形容動詞をも含む）で、形容詞語基を含まないものにはふれないことにする。

語構成の問題を明らかにするには、言語事実について、ある程度、量的な調査をすることが必要であろう。本論文は、日中現代共通語における用例を中心に論を進める必要上、データとしては、『新明解国語辞典』（第五版1997）と《现代汉语词典》（修訂第三版1996）から引用した例を利用し、語の意味も上記二冊の辞書の解釈による。

## 2. 日中複合語の構成パターンと意味分析

### A. 複合名詞

二要素が複合して、名詞になる。

#### a. 形容詞＋名詞（a＋n）

（日） 丸・顔 若・者 高・げた 甘・納豆 赤・旗

（中） 陡・披 肥・肠 黒・店 黄・土 好・意

意味としては、「a」の状態である「n」。具体的に分析すると、次のようになる。

（a）そのまま、「a」が「n」を修飾する場合、

（日） 若・緑 白・バイ

（中） 多・边 怪・事

（b）二要素の持っている本義がありながら、比喩として使われるもの。

- (日) 弱・腰 ①腰の左右の細かい部分。  
②態度が弱くて、ひっこみ思案であること。
- 黒・幕 ①〔芝居で〕背景を隠すために使う、黒い幕。  
②表立った動きは見せないが（実権を握っていて）、陰でさしずしたりする人。
- (中) 悲・剧 ①戏剧的主要类别之一，以表现主人公与现实之间不可调和的冲突及其悲惨结局为基本特点。  
②比喻不幸的遭遇。
- 高・潮 ①在潮的一个涨落周期内，水面上升的最高潮位。  
②比喻事物高度发展的阶段。
- (c) 完全な比喻
- (日) 弱・虫 気の弱い、(いくじの無い) 人をあざけて言う言葉。
- 長・尻 その家の人に迷惑をかけるものとしての、長居。
- (中) 青・云 比喻显要的地位。
- 熱・血 比喻为正义的事业而献身的热情。

b. 名詞＋形容詞 (n+a)

- (日) 色・白 裏・白 胴・長
- (中) 身・長 音・高 胃・酸

このパターンは、日本語にも、中国語にも数が少ない。特に日本語の場合には挙げた例ぐらいである。

意味としては、日本語の方は「n」が「a」の状態であるのに対して、中国語の方は大体「a」が名詞の意味になって、「n」の「a」(名詞)である。

- (日) 色・白 肌の色が白いこと。  
胴・長 胴が長いこと。
- (中) 体・長 人体的高度。  
音・強 声音の大小。

c. 形容詞＋動詞 (a+v)

(日) 早・起 うれし・泣き 深・追い

(中) 焦・炸 冷・飄 杂・烩

このパターンの意味は、大体「a」の状態で「v」すること、或いはそのものである。

(日) 早・起 朝早く起きること (人)。

(中) 杂・烩 用多种菜合在一起烩成的菜。

d. 動詞＋形容詞 (v+a)

(日) 話・べた 望み・薄 待ち・遠

(中) 进・深 烧・蓝 附・近

日本語の方は「v」することが「a」の状態であるという意味に対して、中国語の方は「a」が実際には名詞として使われるので、「v」の「a」(名詞)という意味である。

(日) 望み・薄 将来よくなりそうな見込みが薄い。

(中) 进・深 院子或房间的深度。

g. 形容詞＋形容詞 (a+a)

(日) 甘・辛 好き・嫌い 高・低

(中) 厚・薄 长・短 净・重

日本語の方は、数がすくないし、そして大体、二反対語の複合によって形成されているので、意味も大体その二反対語の意味の並列である。中国語の方は、日本語と同じようなパターンもあるし、また「a」が「a」を修飾するパターンもある。つまりあとの「a」が名詞として使われる。

(日) 甘・辛 甘い味と辛い味。

(中) 厚・薄 厚度。

净・重 货物除去包装的封皮，盛器或牲畜家禽等除去毛皮或毛的重量。

## B. 複合動詞

二要素が複合して、動詞になる。

形容詞＋動詞 (a＋v)

(日) 遠・退く 高・鳴る 若・がえる

(中) 猛・醒 遅・到 長・生

両方とも、「a」の状態で(に)「v」する意味である。

(日) 高・鳴る 高く鳴りひびく。

(中) 長・生 永远不死。

## C. 複合形容詞

二要素が複合して、形容詞になる。

### a. 名詞＋形容詞 (n＋a)

(日) 心・細い 草・深い 花・恥ずかしい

(中) 土・黄 嘴・硬 年・轻

主として「n」が「a」の状態であるという意味ではあるが、日本語と中国語の間にはちがいがあある。

日本語の方は、

① 客観的な描写で、「n」が「a」の状態である。

毛・深い 毛が多くて、濃い。

② 比喩として使われ、気持ちや情緒の状態を表わすのが多いようで、「n」になる要素が人間の器官を表わす場合が多いようである。

口・うるさい 何でもきちんとさせねば、気が済まない性分でいろいろ口出しをする様子だ。

中国語の方は、

① ものの色を表わす言葉としてよく使われる。

土・黄 像黄土的颜色。

② ①の部分を含めて、「n」が「a」の状態であるという意味ではなく、「a」が「n」のようになるという意味である。

火・紅      像火一样红。

③ 比喻として使われ、「n」になる要素が人間の器官を表わすものが多い。

脸・软      过分重情面。

b. 形容詞＋形容詞 (a+a)

(日) 細・長い    ずる・賢い    青・白い

(中) 肥・大      高・深      灰・白

意味として、大体、前後の「a」の状態を同時に表わす。

(日) 細・長      細くて長い。

(中) 肥・大      又肥又大。

また、前の「a」はある程度副詞の役割をはたし、後の「a」を修飾する傾向がある。

(日) 浅・黒い      [肌の色が] 薄黒い。

(中) 淡・青      浅蓝而微绿的颜色。

c. 動詞＋形容詞 (v+a)

(日) 回り・くどい    聞き・苦しい    ねばり・強い

(中) 飞・快      滚・热      发・愁

日本語は、大体「v」した状態で「a」であるという意味で、いわば「v」する、或いは、したのが「a」の状態であろう。

聞き・苦しい      話の内容がお粗末であったり、人の悪口ばかり言ったり、自画自賛であったりして、聞いているのが嫌になる様子。

中国語の方は、

① 「v」したように「a」の状態である。

滾・热 非常热, 水受热沸腾一样。

② 「a」が名詞のようになり、「v」+「n」の意味になる。

好・强 要强, 不甘落后。

以上述べた他に、中国語にはまた幾つかの構成パターンがある。例えば、複合名詞になるもの、

副詞 + 形容詞 至・亲

複合動詞になるもの、

動詞 + 形容詞 贊・美

形容詞 + 形容詞 偏・重

副詞 + 形容詞 不・甘

形容詞 + 名詞 小・心

複合形容詞になるもの、

形容詞 + 名詞 严・格

などである。このようなパターンは日本語<sup>2)</sup>にはあまりない、或いは、例が少ないので、本論文では触れないことにする。

### 3. 日中複合語の意味分類

2. 節では日中複合語の構成パターンと各パターンの持つ意味について考察したが、本節では、意味（複合によって形成された複合語の意味を指す）と要素意（複合語を形成する二要素の意味を指す）との関係から複合語の意味分類を試みたい。複合語の意味と各要素の意味は、上記二冊の辞書の解釈による。以下複合語の意味をAに、それを形成する二要素の意味をaとbとする。複合語の意味には、以下のような四種類があると思う。

(一)  $A=a+b$



複合語を形成する二要素の意味は、形成された複合語の意味と全く同じである場合、つまり要素意は、それぞれ複合が行われる前の意味を止めるもの。例えば、

(日) 厚・紙 厚い紙。

(中) 远・道 遥远的道路。

(二)  $A = a + b + c$  (cは補充内容)

要素意は、もとの意味を表わすが、その表し方が部分的である場合、つまり複合された結果、要素意のほかに、何か補足しなければならないもの。例えば、

(日) 高・齒 下駄の齒の高いもの。

(中) 高・枕 垫高了的枕头。

(三)  $A \rightleftharpoons a + b$

複合された結果、意味が転化するもの。例えば、

(日) 高・鼾 音の高いいびき、よく寝ること。

(中) 白・旗 白色的旗子，战争中表示投降。

(四)  $A \neq a + b$

複合された結果、二要素の一つ、或いは二つとも元の意味を失い、完全に新しい意味を持つもの。例えば、

(日) 青・大将 ヘビの一種、体は緑色を帯び、長さ2メートル近くなる。

(中) 旧・雨 老朋友。

#### 4. 形容詞語基を含む日中複合語の二要素における結合関係

本論文では、複合語を形成する二つの要素における意味関係と文法関係を複合語の二要素における結合関係と呼ぶ。

複合語の各要素における結合関係については、日本語でも、中国語でも、これまで先行研究によって多く論じられてきたが、ほとんどの説は、文法的な立場からしか論じられなかった。主な理由として複合語の各要素における結合関係は、その言語のシンタクスと深く関連しており、ほとんど同じであると思われるからであろう。例えば、森岡（1982）では「一般に現代日本語で、複合語の成分の並ぶ順序は、それらが独立の語として、倒置などの行われな、普通の文の中での原則的な順序と、かなり平行している。」（p38）と説明されている<sup>3)</sup>。陸志偉（1964）では“汉语里，造句的形式和构词的形式基本上是相同的。”（p2）と、陳光磊（1994）は“构词的方式同造句的方式有着相当的一致性。”（p38）と説明している。

以上の主張は、もちろん正しいことであるが、複合語の各要素における結合関係に対する分析が、ただ文法的な立場、つまりシンタクスという立場からしか論じられなかったのは、不十分だと思う。

たしかに、複合語の各要素における結合関係は、その言語のシンタクスと深いかかわりがあり、形式の方ではほぼ同じであるのは、事実であるし、複合語の各要素における結合関係を分析するのに、文法的な立場から論ずるのは重要である。が、複合語の各要素における結合関係を究明するには、その文法的な関係、つまりシンタクス関係を明らかにするのみならず、複合語が持っている意味、つまり、各要素の複合によって形成された、新しい語（複合語）の持つ意味も究明しなければならない。

文法的な分析だけでは、複合語の持っている意味を説明しきれない場合もある。例えば、日本語の方は、

「青虫」と「弱虫」

両方とも、「a+n」のパターンで、いわゆる修飾関係には属するが、

「青虫」は虫である（小形で緑色のイモムシ）のに対して、「弱虫」は虫ではない（気の弱い・[いくじの無い]人をあざけて言う言葉）。その理由は、以下のようである。

「青虫」の「青」と「虫」の結合関係は、ただ修飾と言うだけで、説明しきれないし、意味の面でも疑問がない。一方、「弱虫」の「弱」と「虫」の結合関係は、ただ文法的な面だけでは説明しきれないところがあり、意味の方を考えればその結合関係を比喻＋修飾とまとめた方がよい。

中国語の方にも似たような現象がある。例えば、

“黒云”と“青云”

両方とも、「a」＋「n」というパターンで、文法的な面から言えば、修飾関係には属するが、

“黒云”は、雲（“乌云”）である。

“青云”は、雲（“比喻显要的地位”）ではない。

それは、「黒雲」という修飾関係に対して、「青雲」の方の結合関係、比喻＋修飾になるからである。

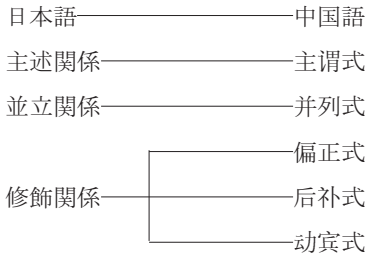
以上述べたように、複合語の各要素における結合関係を分析するのに、文法的な立場と意味的な立場との両方から考察しなければならない。ここに説明しておきたいことは、本論文で言う語の意味とは、複合によって形成された複合語の意味を指すものである。

#### A. 形容詞語基を含む日中複合語二要素における文法的な関係

文法的な関係とは、複合語の二要素における結合関係が、文法的な分析だけで説明しきれないということである。

複合語の二要素の間でどういう文法的な関係がみられるかについては、日本語でも、中国語でも、先行研究によって詳細に説明されてきた。

日本語と中国語それぞれの複合語の各要素における文法的な関係に関する先行研究の成果を参考にし、その対応関係を以下のようにまとめられる。



a. 「主述関係」と“主謂式”

前の要素が後の要素に対して主語をなす関係である。

① 名詞＋形容詞 (n+a) ——形容詞

(日) 薫り高い 罪深い 泥深い 間近い 遠慮深い 名高い  
(中) 性急 年轻 手巧 头痛 命薄 言重

② 動詞＋形容詞 (v+a) ——形容詞

このようなパターンは、日本語にしか見られず、数も少ない。

話べた 望み薄

③ 名詞＋形容詞 (n+a) ——名詞

このようなパターンは、日本語にしか見られないようで、数も少ない。

色白 胴長

④ 動詞＋形容詞 (v+a) ——形容詞

日本語では、野村（1977）は、上記④の「a」を接辞とするが、『新明解国語辞典』から引用した全20ぐらいの例を分析してみると、「主述関係」にいたの方がいいようである。つまり「v」する、或いは、したのが、「a」の状態であるとみた方がいいだろう。

聞き苦しい 聞き辛い 聞き難い 聞き好い 寝苦しい 粘り強い  
残り多い 残り惜しい 残り少ない 回りくどい 見苦しい 見辛い  
見難い 見好い 見易い 蒸し暑い 黙し難い

b. 「並立関係」と“并列式”

前の要素と後の要素が対等の資格で、並立する関係である。

日本語でも中国語でも、主語、述語、目的語など同じ文法的な役割を果たすものの並立する例が多く見られる。「並立関係」はそこから作られたと言われる。

(a) 形容詞＋形容詞 (a＋a) ——形容詞

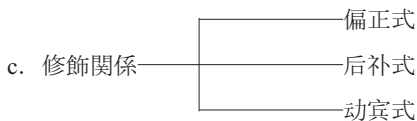
(日) 甘辛い 甘酸っぱい 細長い

(中) 笨重 薄弱 矮小

(b) 形容詞＋形容詞 (a＋a) ——名詞

(日) 好き嫌い 甘辛

(中) 高低 长短 厚薄



何故、こういう対応関係になるのかというと、中国語の方は、“定语”（連体修飾語）が修飾される語の前に位置するが、「補語」は修飾される語の前にも、または後にも現れる。これに対して、修飾語が被修飾語に先行するのが、日本語の語順、シンタクスの大原則である。

① 「修飾関係」と“偏正式”

中国語の“偏正式”は、いわゆる“前偏后正”（前の要素が後の要素を限定する）なので、日本語の「修飾関係」の一部と対応している。

(a) 形容詞＋名詞 (a＋n) ——名詞

(日) 青筋 赤砂糖 浅知恵

(中) 多事 灰色 黑霉

(b) 名詞＋形容詞 (n＋a) ——名詞

このようなパターンは、中国語にしか見られない。

体重 海鲜 地热

それは、実は後の要素である「a」が、すでに「n」になっているので、

「n+a」が「n+n」になってしまったからである。

(c) 形容詞+動詞 (a+v) —— 名詞

(日) 早咲き 清刷り 悔し泣き

(中) 广告 短评 静坐

(d) 形容詞+形容詞 (a+a) —— 名詞

中国語では、このような例が多く見られるが、後の要素「a」が「n」の内容で使われる。

粉红 净重

(e) 形容詞+動詞 (a+v) —— 動詞

(日) 近づく 青ざめる 遠ざかる

(中) 惨嘆 长叹 延迟

(f) 名詞+形容詞 (n+a) —— 形容詞

このパターンは、中国語にしか見られず、前の要素「n」が「a」のように使われる。

火热 (「火のように熱い」)

②「修飾関係」と“后补式”・“动宾式”

中国語の“后补式”は、“扩大”のように後の要素「a」が前の要素「v」を補足する。“动宾式”は、“举重”のように前の要素「v」が後の要素「a」を支配する。この場合、その「a」がすでに「n」としての役割を果たす。

このパターンは、日本語の語順、つまり、シンタクスと矛盾するので、殆ど見られないようではあるが、実はあると思う。例えば、

(日)	(中)
「遠回り」	“绕远”
「重量挙げ」	“举重”

を比べてみると、語順がちがっているだけで、中国語の“后补式”と“动宾式”は、日本語の「修飾関係」の中に含まれていいものである。

また、“后补式”と“动宾式”は、日本語固有の結合関係ではない。現

代語としては、「殺人」・「露骨」など、いわゆる二字漢語にはこの意味的な関係が認められるが、これは過去において中国語の結合法がそのまま移入された結果、成立したものであって、現代日本語において、新たに造語されたものの中には、こういう“后补式”と“动宾式”の関係はあまり見られないようである。が、例外はある。例えば「超工リート」などがそれである。ただ中国語の“动宾式”の“宾”の位置に「a」が出て来た例は、未だ見られない。

## B. 形容詞語基を含む日中複合語の二要素における総合関係

総合関係とは、文法的な関係のほかに意味の面から考えて何らかのかかわりがあるということを指す。

### ① 比喩＋文法的な関係

前に述べた「青虫」と「弱虫」、「黒云」と「青云」の例からも分かるように、このパターンの複合語の形成は、何らかの比喩を通して文法的に作られたのである。

### ② 誇張＋文法的な関係

(日) 花恥ずかしい (花も恥ずかしいほど美しい。)

(中) 天骄 (汉朝人称匈奴单于为天之子，后来称历史上某些少数民族君主为天骄。)

などのように、ただ主述関係として「n」が「a」の状態であるというだけでは、複合語の意味が分からない。

### ③ 対比＋文法的な関係、

(日) 厚焼き          厚く焼き上げた食品。

        薄焼き          薄く焼き上げた食品

(中) 红军

        白军

### ④ 模倣＋文法的な関係

(日) 赤砂糖 (精製しない、赤茶色の砂糖)

→黒砂糖、白砂糖

(中) 冷门

热门

他にも多くの種類があるが、まとめて言うと、総合関係は、複合語における文法的な特質を示しているのみならず、その語の、形成された時の背景等も反映しているものである。

### C. 文法的な関係から派生した、形容詞語基を含む日中複合語二要素における特殊な関係

日本語にも中国語にも、字面から見れば未だ文法的な関係にはあるが、実はすでに失われてしまった複合語が見られる。例えば、

(日) 黒船 (幕末に来航した欧米の艦船)

(中) 白宫 (美国总统的官邸, 在华盛顿, 常用做美国官方的代称。)

このような複合語の結合関係は、文法的な関係から派生した、特定の意味を持つ特殊な関係である。

黒船 ≠ 黒い船 (鉄で出来た船という意味もある)

白宫 ≠ 白色的宮殿

### D. 日中複合語の二要素間の結合関係への再分析

以上述べたように、本論文は複合語の結合関係を文法的な関係、総合関係、特殊な関係に分類したが、ここで、総合関係と特殊な関係をもう少し詳しく説明したい。

一、複合語は、事物を表わすが、そのあらわしかたは、主として二種類に分けられる。一つは、論理的で、シンタンスとよく似ている。つまり、文法的な関係にあるものを指し、ここでは省略する。もう一つは、具体的



で、事物の具体性を表わすことにもポイントを置く。このような複合語の二要素における関係を考える場合、二要素における文法関係を考えると同時に、事物の表現の結果を直接且つ具体的に考えるべきである。日本語の「弱虫」と中国語の“青云”を分析する場合は、文法関係を考えると同時に、比喩などのような関係も考えなければならない。

二、二要素における結合関係が総合関係にある複合語は、形態上の意味と実際上の意味とは異なる現象がおこる。つまり、複合した結果、意味がそれを形成した二要素の文法的な関係における意味とは一致しない場合もある。例えば、

(日) 心・苦しい

(中) 豆・绿

何れも、比喩＋文法的な関係ではあるが、それぞれ、「心が苦しい」と“豆是绿色的”という意味ではなく、「相手に済まない気持ちがある」と“象青豆一样的绿色”といった意味である。それは物事の具体さを表わすことを強調したので、複合語の意味がそれを形成する二要素の文法的な関係による意味からはみ出した結果である。が、「苦しい」と“绿”の二要素の意味と文法的な働きがまだ完全に失われていないので、この現象を半成語的な関係と呼んだ方がよいかもしれない。

三、特殊な関係にある複合語とは、文法的関係から派生して全く新しい意味を持つようになった語を指す。このような複合語は、語彙の角度からいうと、単一的な意味を表わす語になってしまい、比喩・借用などの方法を使っただけで、全く新しい内容を表わすものである。数は少ないし、二要素における結合関係を文法的には分析しきれない場合もある。例えば、

(日) 赤門 特に東京大学の朱塗りの通用門。転じて、東京大学の俗称。

(中) 青衣 戏曲中旦角的一种，扮演庄重的中年或青年妇女，因穿青衣得名。

上記のような複合語が形成される原因は、歴史や生活習慣などと深い関

係があつて極めて複雑なので、本論文では触れないことにする。

以上の論述と分析を通じて、日本語でも中国語でも、複合語間の結合関係には、文法的な関係のほかに、総合関係と特殊な関係が存在することが分かる。

形容詞語基を含む日中複合語の二要素における結合関係を要約すると、以下ようになる。

A. 文法的な関係

——文法的関係＝意味関係

(日) 罪深い

(中) 性急

B. 総合関係

——文法的な関係＋意味関係（比喩・誇張・対比・模倣）

(日) 弱虫

(中) 热血

C. 特殊な関係

——文法的な関係≠意味関係

(日) 黒船

(中) 白宮

## 5. おわりに

本論文は、形容詞語基を含む複合語を中心に、日中複合語の構成パターンと意味に対する分析を通じて、これまでの複合語の二要素における構成関係への文法的な分析を再認識したうえで、複合語の各要素における結合関係と、形容詞語基を含む日中二要素の複合語の対応関係について考察した。

## 参考文献

- 陈光磊 (1994) 《汉语词法论》，学林出版社
- 符准青 (1985) 《现代汉语词汇》，北京大学出版社
- 顾阳、沈阳 (2001) 汉语合成复合词的构造过程，《中国语文》第 2 期
- 陆志伟 (1964) 《汉语的构词法》，科学出版社
- 王绍新 (1987) 霽汉语复合词内部的语义汉成，《语言教学与研究》
- 王树斋 (1993) 汉语复合词素义和词义的关系，《汉语学习》第 2 期
- 张登歧 (1997) 汉语合成动词的结构特点，《中国语文》第 5 期
- 张寿康 (1981) 《构词法和构形法》，湖北教育出版社
- 影山太郎 (1993)：『文法と語形成』ひつじ書房
- 斎賀秀夫 (1957)：「語構成の特質」『現代国語学Ⅱ ことばの体系』筑摩書房
- 斎藤倫明 (1992)：『現代日本語の語構成論的研究』ひつじ書房
- 阪倉篤義 (1966)：『語構成の研究』角川書店
- 佐藤喜代治 (1982)：『語彙原論 講座日本語の語彙第 1 巻』明治書院
- 佐藤喜代治 (1982)：『現代の語彙 講座日本語の語彙第 7 巻』明治書院
- 佐藤喜代治編 (1977)：『国語学研究事典』明治書院
- 野村雅昭 (1977)：「造語法」『岩波講座日本語 9 語彙と意味』岩波書店
- 野村雅昭 (1989)：「語構成」『講座日本語と日本語教育第 1 巻 日本語学用説』明治書院
- 森岡健二 (1982)：『講座日本語学12 外国語との対照Ⅲ』明治書院
- 『新明解国語辞典』（第五版1997）：三省堂
- 《现代汉语词典》（修訂第三版1996）商务印书馆

- 
- 1) 本論文は、日中複合語に関する総合的な研究の一環として、形容詞語基を含むものを中心に論を進める。それ以外の複合語については、別の機会に譲る。
  - 2) 本論文では、日本語の漢語には触れないことにする。
  - 3) 斎藤 (1992) は、形容詞語幹を前項とする複合名詞を、同一語幹形容詞を含む連体修飾構造へと書きかえる際、「Aは同一語幹形容詞でそのまま書きかえられる場合、Bは条件付きで書きかえられる場合、そしてCは同一語幹形容詞では全く書きかえられない場合」の三つがあると説明しているが、複合語全体については触れていない。